

1. 評価報告概要表

作成日 平成19年11月18日

【評価実施概要】

事業所番号	1171100488
法人名	有限会社グループホームやすらぎ
事業所名	グループホームやすらぎ
所在地	345-0025 埼玉県北葛飾郡杉戸町清地6-2-7 (電話) 0480-33-1888

評価機関名	社会福祉法人 埼玉県社会福祉協議会 福祉サービス評価センター
所在地	330-8529 埼玉県さいたま市浦和区針ヶ谷4-2-65 彩の国すこやかプラザ
訪問調査日	平成19年11月16日

【情報提供票より】(平成19年11月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成12月9月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	10 人	常勤 3人, 非常勤 7人, 常勤換算 4.4人	

(2) 建物概要

建物構造	木造パネル構造造り 2階建ての1階～2階部分
------	---------------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	58,000円～63,000円	その他の経費(月額)	13,000円 + 実費	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
または1日当たり 1,200円(おやつ代含む)				

(4) 利用者の概要(9月1日現在)

利用者人数	6 名	男性	0 名	女性	6 名
要介護1	2 名	要介護2	2 名		
要介護3	2 名	要介護4	0 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 79 歳	最低 55 歳	最高 94 歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	東埼玉病院、優心会クリニック、山口歯科
---------	---------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

家庭的な環境の提供と、日々の関わり方によって、認知症状は改善するという考えから、自宅を改修、増築してできたグループホームである。利用者はマイペースで生活し、職員は利用者の希望をできるだけ実現してあげようと努力している。また、レクリエーションや会話においても、昔を思い出せる工夫をして、利用者、職員とも穏やかな表情で楽しく過ごしている。また、少し離れた場所にある併設デイサービスで週2回、月2～3回開催されるイベントに参加し、交流している。さらに散歩、買い物、外食、ドライブなど外出の機会を多くしている。地域の人たちに認知症を理解してもらい、地域との密着に努力をしている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回外部評価結果の改善課題を話し合い、評価を見やすいところに置いているが、まだ十分に改善されていない。今後、改善シートを作成し、改善計画を立て、計画的にサービスの向上に取り組まることが求められる。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>今回の自己評価は職員全員で取り組んでいる。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>今年は、4月、7月、9月の3回、運営推進会議を実施している。参加者は町職員、地域包括支援センター職員、地域住民、利用者家族、利用者、ホーム職員などである。会議では意見が活発に交わされ、会議の様子はきちんと記録されている。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>面会時に状況を報告し、必要時に電話連絡をして、家族の意見を聞いている。また、担当者会議にもできる限り参加してもらっているが、定期的な連絡はできていない。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>町内の自治会に加入して、ごみ当番、掃除、草刈などを行ったり、町内の花火大会などに参加し、地域との交流を図っている。</p>

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	家庭的な環境で、自立した生活が出来るような事業所独自の理念を掲げている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	皆の集まる居間に理念を掲示している。また機会を作って職員間で理念を話し合い、理念について再確認している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入して、ごみ当番、地域の共有部分の掃除、草刈などを実施し、町内の行事にも参加している。デイサービスで週2回と月2回から3回開催されるイベントに参加するなど、地域住民との交流を図っている。		
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の結果を話し合い、また報告書を見やすいところに置いているが、前回指摘された定期的な会議、研修の報告、家族への定期的な連絡などについては改善が充分とは言えない。		外部評価結果をふまえた話し合いをし、改善シート等を作成し、改善計画を立てるなど、改善のための具体的な取り組みを期待する。
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年は、4月、7月、9月の3回、運営推進会議を実施している。参加者は町職員、地域包括支援センター職員、地域住民、利用者、利用者家族、ホーム職員などである。会議では活発に意見交換され、記録もきちんとされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	町職員には運営推進会議に出席してもらっている他、必要時にはホーム職員が担当窓口に出向いて積極的に相談している。		
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時に状況報告をしたり、必要時に電話連絡をしているが、定期的な連絡はしていない。		会計報告をする時など、定期的に利用者の状況やホームの行事などを報告されることが望まれる。また現在休止している「やすらぎ新聞」を再開し、家族に送付されることを期待する。
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に家族も参加してもらっている。面会時に話を聞くように努めている。都合がつくときは家族に2ヶ月に1回行われている担当者会議に出席してもらい、意見を聞いて、ケアプランや日々のケアに反映している。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動、退職者が少ない。法人内の全職員がホーム利用者と馴染みの関係が築けているため、ホーム職員が異動しても利用者へのダメージは少ない。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	採用時には管理者が理念や認知症の介護方法などを新入職員に教育し、その後実務研修を行っている。継続研修は系統だてで行われていないが、外部研修の紹介をして、研修を受けるよう勤めている。受けた研修について、他の職員への報告はきちんとできていない。		受講した研修を報告するような制度の確立が求められる。また計画的に内部及び外部研修を予定し、職員のスキルを向上する機会をつくることを望まれる。
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の他のグループホームと連携を取り、情報交換を行うなどして、ネットワークづくりからサービスの質の向上に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に、利用者やその家族にホームの見学をしてもらっている。また、ホームに馴染めない利用者については、家族と話し合い、利用者がホームに馴染めるように一緒に工夫している。		
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	知恵袋のような利用者の方々に教を請うことが多く、料理の仕方、漬物の漬け方など教わっている。職員・利用者が一緒に料理を作ったり、盛り付けたり、楽しみながら食事の準備をしている。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントシートを作成し、効果的に利用者や家族の意向の把握に努めている。利用者がマイペースで生活でき、本人が言いたいことが言えるような雰囲気を作り、また、出された希望はできるだけ実現できるように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者の状態、生活歴、本人の希望、家族の意向を考慮して、2ヶ月に1回担当者会議を行い、介護計画を作成している。なお、担当者会議に家族が出席することもある。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は2ヶ月から4ヶ月に1回、定期的な見直しをし、また状態変化時には随時担当者会議を開いて見直しを行っている。また、介護計画のモニタリングについても、専用紙を作成し、きちんと記録できるよう工夫している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	提携医による往診を受けることが可能であり、また利用者やその家族の状況に応じて通院介助を行うなど、利用者が安心して生活するための医療連携体制が整備されている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	現在、利用者全員が2ヶ所の提携病院による診察を希望しており、提携病院から月1～2回の往診を受けている。利用者やその家族が提携病院以外の医療機関による診察を希望された場合も、受診できるよう支援している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	現在はターミナルケアを行っていないが、今後実施を検討しており、ターミナルケアに対する家族の同意書の作成も行われている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねないような接し方をしている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者が言いたいことを言えるような雰囲気を作り、日々の生活に対する利用者の希望を聞き、利用者のペースで過ごせるような生活を実現できるよう支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立作成から買い物、調理の準備、食事まで、職員と利用者が楽しみながら一緒に行っている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	併設のデイサービスで、週2回入浴している。週2回の入浴以外に利用者が希望した場合は、随時グループホームでの入浴が可能になっている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事の準備、買い物、散歩、洗濯物整理、いちご作りなどを楽しみながら一緒に行っている。また、毎日のレクリエーションは、利用者全員が主体的に動きながら楽しめるよう工夫している。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の希望により散歩、買い物、ドライブ、夕食、図書館等へ行くなど、日常的な外出支援ができています。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	現在、徘徊する利用者がいないので玄関は施錠していない。徘徊する利用者がいた時には、見守りや気配りをしっかり行うことにより、徘徊行動を抑え、施錠しないケアに繋がっている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	3年前に消防署の避難訓練を受けて以来、消防署による訓練は受けていない。現在敷地内で工事が行われているので、工事が終了次第、避難訓練を受けるつもりである。消火器は置いている。		工事が終了次第速やかに消防署の避難訓練を受けることが求められる。また運営推進会議などで地域の方々に災害時の協力を依頼し、地域の方々と一緒に避難訓練を行うことが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事の栄養バランスに気をつけている。体重測定を月一回行い、血液検査なども行っている。栄養及び水分摂取量を記録し、食欲がないときなどは医師に相談している。		
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	民家を改修して設立したので、家庭的な雰囲気が感じられる。季節を感じるものを飾るなど、居心地のよい空間づくりの工夫が感じられる。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には利用者が使い慣れたものを自宅から持ち込むことができ、利用者にとって住みやすい環境に配慮している。		